

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 清永 麻子

〔題名〕

認知症高齢者在宅復帰支援連携パスの開発

－病棟看護師と訪問看護師との連携・協働を焦点にして－

〔要旨〕

1. 研究の目的

認知症高齢者が、入院の原因となった疾患の治療が終了した後、住み慣れた自宅で在宅生活を再開するために病棟看護師と訪問看護師が連携・協働するために活用可能な「認知症高齢者在宅復帰支援連携パス」を作成・活用する。

2. 研究の方法と結果

- 1) 第1段階：地域包括ケア病棟看護師と訪問看護師に、認知症高齢者への在宅復帰支援に向けた実践や連携・協働について半構成面接を行った。分析の結果、病棟看護師は、訪問看護師との連携は院内の連携部門に一任しており、直接的なかかわりに課題があった。一方で、訪問看護師は、入院早期から病棟看護師との直接的な連携を望んでおり、訪問看護師がもつ情報が入院中の認知症ケアにも役立つと考えていた。
- 2) 第2段階：第1段階をもとに「認知症高齢者の在宅復帰を目指すための看看連携に関する病棟看護師の評価指標」を作成し、認知症看護認定看護師に質問紙調査を行い、信頼性と妥当性を検証した。作成した指標を用い、地域包括ケア病棟看護師に調査を行った。認定看護師と比べ、訪問看護師との連携や在宅生活の情報収集に課題があることがわかった。
- 3) 第3段階：これまでの研究結果から、「認知症高齢者在宅復帰支援連携パス」を作成した。対象となる地域包括ケア病棟看護師とともに病棟の特徴を踏まえた「認知症高齢者の在宅復帰支援連携パス」に改編し、活用を試みた。パスの活用によって、在宅からの情報によって在宅生活の理解が深まり、また病棟からの情報で、治療や訓練の経過を知ることができ、在宅に迎える準備に役立てることができた。

3. 本研究の意義と研究の限界・課題

認知症高齢者は、今後さらなる増加が予測されている。このため、医療機関には認知症サポートチームの設置、地域（在宅）との連携の強化、入院早期から退院直後まで切れ目のない連携を強化するよう政策的な制度が打ち出されている。今回作成した連携パスは、これらの課題に対応し、この連携パスを活用することで、認知症高齢者が住み慣れた自宅に戻ることができる。この連携パスは、地域包括ケアシステムの一部を担うことができると確信している。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1706号	氏 名	清永 麻子
論文審査担当者	主査教授	堤 雅恵	
	副査教授	伊東美佐江	
	副査教授	永田 千鶴	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
認知症高齢者の在宅復帰支援パスの開発—訪問看護師との協働を焦点にして—			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
認知症高齢者の在宅復帰支援に向けた地域包括ケア病棟看護師と訪問看護師の連携・協働の実態 掲載雑誌名 山口医学 第72巻 第3号 97～110頁 2023年5月 (掲載)・掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
<p>申請された学位論文は3段階の研究で構成され、認知症高齢者が退院後すみやかに自宅での生活を再開することを目指して病棟看護師と訪問看護師が連携・協働する際の「認知症高齢者の在宅復帰支援パス」の作成・活用を試みたものであった。</p> <p>【第1段階】 地域包括ケア病棟に勤務する病棟看護師と訪問看護師に、認知症高齢者の在宅復帰に向けた実践や連携・協働について半構成面接を行った結果、病棟看護師は連携を院内の他部門に一任しており、直接的なかわりに課題があった。一方、訪問看護師は、入院早期からの直接的な連携を望んでおり、また、訪問看護師が持つ情報が入院中の認知症ケアにも役立つと考えていた。</p> <p>【第2段階】 第1段階の結果をもとに「認知症高齢者の在宅復帰を目指すための看看連携に関する病棟看護師の評価指標」を作成し、認知症看護認定看護師への全国調査によって信頼性と妥当性を検証した。作成した指標を用い、地域包括ケア病棟看護師に調査を行った結果、認定看護師と比べて訪問看護師との連携や在宅生活の情報収集に課題があることがわかった。</p> <p>【第3段階】 第1および第2段階の結果から、「認知症高齢者の在宅復帰支援連携パス」を作成し、地域包括ケア病棟の特徴を踏まえたパスに改編し、活用を試みた。その結果、病棟においては在宅生活への理解が深まり、また在宅においては入院中の治療や訓練の経過を知ることができ、認知症高齢者の在宅復帰に有用であった。</p> <p>本研究は、認知症高齢者が顕著な増加を続ける現代のニーズに応えた取り組みである。現時点では成果の活用が少数の事例にとどまっているものの、調査から介入までの学術的な展開が行われ、病棟看護師と訪問看護師の連携が具体的・実践的に示されていることから、社会への多大な貢献が期待できる。以上から、審査委員会は、申請された学位論文が博士(保健学)を授与するにふさわしいと認め、合格とする。</p>			
以上			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。